

【国語科・小3・「山小屋で三日間すごすなら」①】

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方について理解し、使うことができる。 (2)イ
(思、判、表等) 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、お互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。 A才
(学びに向かう力等) 言葉がもつよさを感じ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

ICT端末の活用により、自分の意見を述べることに苦手意識をもつ児童も、話し合いに積極的に参加できるようにする。

山小屋へ行く場面を想像し、話し合いの目的等を確認し、単元の見通しをもつ。

- ・よりよい話し方・聞き方のポイントについて話し合い、考えを深める。
- ・山小屋へ持って行くものについて、目的に沿って話し合う。
- ・話し合う様子を聞いて、よりよい話し合い方について考えを深める。

単元を振り返り、話し合いにおいて大切なことをまとめる。

事例の概要

本事例は、小3国語科「話すこと・聞くこと」の領域において、ICT端末を活用することにより、クラス全員が話し合いに参加し、育成を目指す資質・能力を児童が着実に身に付けることができるように工夫したものである。その際、話し合いに集中できるよう、話し合いの場1カ所につき10人程度の少人数にしたり、主体的に学習に取り組めるよう、司会・記録等一人一人に役割をもたせたりした。

事例におけるICT活用の場面①

○ビデオ会議ソフトを用いて、オンライン上で話し合いを行う。

事例におけるICT活用の場面②

○ホワイトボード機能を用いて、話し合いを可視化する。

【小3・国語科「山小屋で3日間すごすなら」②】

【事例におけるICT活用の場面①】

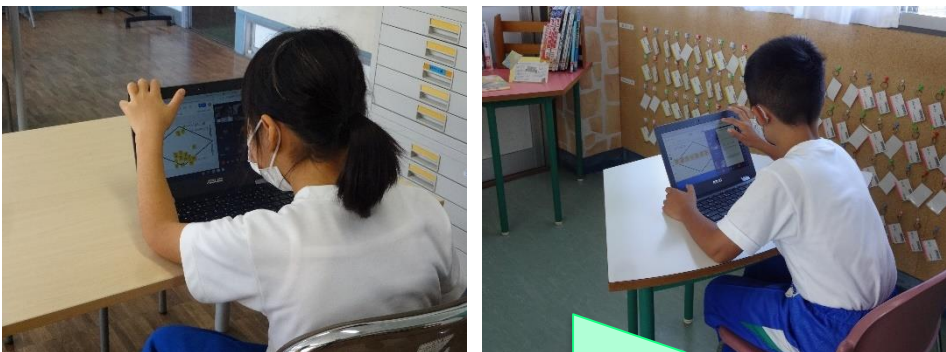


同じ教室の中で、それぞれ違うグループに所属した児童が別々の内容で話し合いを行っているが、皆集中して話し合いに参加している。

○話し合いの場面で、ビデオ会議ソフトを用いた。教室、図書室、多目的室の3カ所に10名程度ずつ分かれ、一人一人が1m程度離れて感染予防に配慮して実施した。
○ICT端末を介し、一人一人が独立した場で話をするようにしたことで、話し合いへの集中力が増すとともに、普段話をすることに消極的な児童も抵抗なく自分の意見を述べる姿が見られた。

○事前の流れの確認や、一人一人の役割分担により、児童が主体的に学習に取り組むことができた。担任は全体を見守り、支援が必要な児童に速やかに対応することができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



電子ホワイトボード上で、思考ツール「ダイヤモンドランキング」を用いて、山小屋へ持って行く物について話し合い、優先順位を決めていった。

○ホワイトボード機能を用いて、画面上の付箋紙に記入した一人一人の意見を集約し、比較したり分類したりしながら話し合いを行った。

○付箋を自由に動かしたり、大きさを変えたりすることで話し合いを可視化・焦点化することができ、有意義な話し合いを行うことができた。

○電子ホワイトボード上の付箋を動かすことができるのは「ボードマスター」一人とし、画面上が雑然としないようにした。

【活用したソフトや機能】ホワイトボード機能、ビデオ会議ソフト